

紙相撲新聞

第161回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

金星大 慢自磯

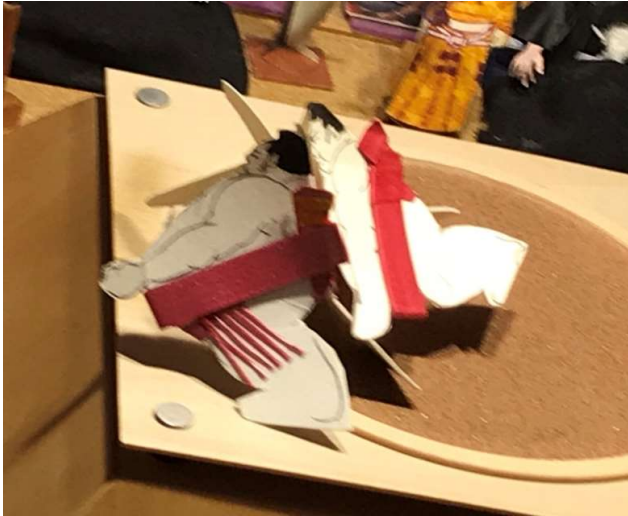
大神楽、西神門、連勝で1敗堅守 千代鈴、四季嶋らが2敗で追走

〔第百六十一回本場所八日～九日目〕

七日目から1ヶ月半空いた3月30日に第161回本場所八日目と九日目が開催され、大関大神楽と関脇西神門の2人が1敗を守って優勝争いの先頭に並んだ。

これを横綱千代鈴、関脇四季嶋、平幕の剛勇山、鬼ヶ嶽、若佑の5人が2敗で追う展開となった。優勝争いは1敗と2敗のこの7人に絞られたと言っ

ていいだろう。残すは2日だが、優勝争いはもちろんのこと、大関大神楽は横綱昇進を



↑八日目、千代鈴は平幕磯自慢の初挑戦を受ける。誰も千代の圧勝を予想していたが、磯自慢は横綱の攻めをうまくかわして回り込み、最後は左差しから寄り切った。場内騒然、磯ノ海親方欣喜雀躍の一番となった。



千代鈴の寄り切りを回り込んで残すと、反転攻勢に出て、のど輪から左を差して見事千代鈴を寄り切り破った。

関脇西神門と関脇四季嶋は大関昇進を賭ける2日間となる。

七日目が終わった時点で、横綱千代鈴、大関大神楽、関脇四季嶋、関脇綱乃花、関脇西神門と平幕の龍不動、若柱の7人が6勝1敗で並ぶ混戦となった。迎えた八日目。

優勝を目指す横綱千代鈴は初顔の磯自慢との対戦。この日は春日根親方が所用で欠席だったが、誰もが千代鈴の勝ちを疑わなかった。ところが勝負は磯自慢が大善戦。

一敗 大神楽 西神門
二敗 千代鈴 四季嶋 剛勇山

まさかの相撲に「ええ、磯自慢が勝ったよ！金星だあ！」と館内に大歓声があふき起こった。「磯自慢はいい相撲を取ったなあ！完勝だよ！」と錦風親方が巧みな相撲を見せた磯自慢の相撲を賞賛した。

取組結果を朝日松理事長が春日根親方に連絡したところ「ちゃんど組んでくれたんでしょね？」と春日根親方が聞き返してきたほど。おそらく前日の鉄甲に敗れた一番のように、立ち合いにうまく組まずに負けたのではないかと思っただろう。

ところがこの一番は真つ向勝負での完敗で、春日根親方もこの一番の録画を見たら驚くに違いない。

また、関脇綱乃花は同じ1敗の関脇西神門に敗れ、平幕の龍不動は関脇四季嶋に、若柱は鬼ヶ嶽に敗れて2敗に後退した。

この結果、八日目を終えて、大関大神楽、関脇四季嶋



鬼ヶ嶽○(押し倒し)●若柱 四季嶋○(押し倒し)●龍不動

↑大関を狙う1敗同士の関脇対決、綱乃花と西神門の一番は、綱乃花が左差しで攻め込むものの、西神門の引き技に足が追い付かず手痛い1敗を喫した。

嶋、関脇西神門の3人が1敗を守り、横綱千代鈴、関脇綱乃花、平幕の磯自慢、鬼ヶ嶽、龍不動、若

佑、若柱の7人が2敗となった。

迎えた九日目の注目目は、横綱千代鈴―関脇綱乃花、大関大神楽―関脇四季嶋、関脇西神門―前頭十四枚目若柱、前頭四枚目磯自慢―前頭十三枚目若佑、前頭六枚目鬼ヶ嶽―前頭十一枚目龍不動の五番。

横綱千代鈴対関脇綱乃花は、3連敗は許されない千代鈴が勝ち、綱乃花は3敗に後退し場所後の大関昇進はほぼなくなった。



四季嶋○(寄り切り)○大神楽



柱●(寄り切り)○西神門

関脇西神門対前頭十枚目若柱は、北見から参加した霧ヶ浜親方が援も叶わず、西神門が勝って連覇に弾みをつけた。

大関大神楽対関脇四季嶋は、貫禄の相撲で横綱に向けて一歩前進した。負けた四季嶋は2敗に後退し、優勝と大関昇進のためにはこれ以上負けるられない星となった。



綱乃花●(寄り切り)○千代鈴

前頭四枚目磯自慢対前頭十三枚目若佑は、をあげた磯自慢から金星に注目が集まったが、右に差される相撲で敗れ、その期待に応えなかった。



若佑○(引き落し)●磯自慢